

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	越智 正樹
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>今年度は主に、次世代ユニット研究「災害復興 50 年の山村社会再編における各種コミュニティの質的転換」のユニット幹事として研究を執り行った。実査は、6 月 28 日～29 日、および 8 月 30 日～9 月 6 日に行った。研究の目的は、壊滅的な豪雨災害から 50 年を迎えた長野県下伊那郡大鹿村を対象とし、復興の過程で発生した各種コミュニティに焦点を当て、それらがいかに地域社会再統合と関連して親密性と公共性を転換してきたかを分析することであり、特に山津波の跡に出来た官民境界の不分明な台地が、「新しい村づくりのシンボル」たる公園として再編されるプロセスについて研究した。</p> <p>年度内には、「山村における被災箇所の観光資源化と＜共＞の複数性」と題した研究会報告（琉球大学観光産業科学部主催）を行った。その報告論文は、2012 年中旬に発刊される同学部観光科学科 2011 年度紀要に掲載されることが決定している。また同紀要には、「地域開発・資源管理の文脈における『地元』概念の考察」と題する単著論文（2012 年 1 月受理）も掲載されることが決定している。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>【研究会報告（単独）】</p> <p>「山村における被災箇所の観光資源化と＜共＞の複数性」（琉球大学観光産業科学部主催研究会「観光を科学する～観光研究における新たな視座～」2012 年 3 月 17 日、沖縄産業支援センター）。</p>	

